

淀川水系流域委員会  
第33回委員会 傍聴者発言(予定原稿)

No.

/

月々懇話会 浅野隆彦 DATE 2004. 9. 29

河川管理者に対し、2つ申し上げたい。

木津川上流の治水を考へる時、その検討の前提たる「現況における岩倉峽の疎通量」を、責任ある数値として明白にせず、50年も前の島ヶ原地点観測値などからの推定により、岩倉水位観測所地点で  $2,940 \text{ m}^3/\text{s}$  とし、今だに実証的調査もせず、古臭い数値にコダワルのはイカゲンに止めて頂きたい。

9月15日付意見書 No. 492 に於て指摘したように、河川事務所が平成5年作成の「観測流量表」でも、水位  $10.50 \text{ m}$ 、即ち計画高水位 E.L.  $136.59 \text{ m}$  に於て、 $3,630.61 \text{ m}^3/\text{s}$  の流量と出ています。これは、既往最大洪水である(5313洪水)の流出に対応する計画高水量  $3,532 \text{ m}^3/\text{s}$  を上廻ります。即ち、狭身部上流に対する現目標からすれば、「上野遊水地さえ要らなかつたではないか。あとは堤防の整備を充実したり、様々の流域対応をしてゆけば、少々の超過洪水に対しても、被害の軽減という成果は確実に為せる。…」との意見も成立するところがあります。

こゝは速やかに、根拠のある「現況における岩倉峽の疎通量」を示し、上野遊水地の最も効果的な働きを検討した上での設定と合せると、既往最大(5313洪水)の流出量に対し、何倍の規模まで氾濫なしでいけるか、という「判りやすい形」で示して頂きたい。又、その検討では、合流部付近の河川堤防における余裕高さを確保し、破堤による氾濫を防ぐ為にも、越流堤の高さは、E.L.  $136.2 \text{ m}$  平均とするべし、とする私の論も、十分考慮して欲しいと思っています。

次は、川上ダム建設予定地周辺の「付替県道・付替町道」の問題です。これらは、その計画図を見ると、ダム本体と原石山、残土捨て場、採石カエフロントなどの連絡が密接な、事実上の工事用道路であります。これは、8月4日付「意見書 No. 470」で指摘し、委員会の「基礎原案に対する意見書」にも苦言を呈したばかりですが、よくよく調査すると、この付替町道たるや、どこにも水没する事で付替えを必要とするものが見当たらない。「兼用」と言ったりもしているが、完全に「工事用専用道路」であります。

No. 2.

DATE

そして、この付替町道ができるのであれば、「付替県道青山・美杉線」は全く無用であり、「無駄金使い」と言えます。国道等へも、町道経由の方が短距離です。

最も重要な事は、「付替県道青山・美杉線」が、この地域最大の「生物宝庫の地」を縦断するルートに計画されていることあります。希少種オオタカ数番いの営巣をはじめ猛禽類数種の営巣や、サルその他の重要種20種類ほどの棲息が認められている。前深瀬川と川上川に限られた人間の立入りが少ない地域であるが、この場所であるのに、何故この様な「無駄な、環境無視」のルートを選定したのか、やはり基本的に、ダム事業者は「環境」を厄介者と見ているのでしょうか。

この「付替県道青山・美杉線」は、計画から完全に外に貰いたいと要求いたします。